

リサイクルで地球環境の未来を創る

東京ボード工業株式会社

2019年3月期 第2四半期決算説明会資料



2018.12.06

証券コード 7815

1. 当社グループ概要

- 1-1 当社グループのセグメント
- 1-2 当社グループの事業
- 1-3 製品・用途

2. 2019年3月期 連結上期実績

- 2-1 連結業績ハイライト
- 2-2 連結貸借対照表
- 2-3 連結キャッシュ・フロー計算書

3. 2019年3月期 通期予想

- 3-1 連結業績予想
- 3-2 個別業績予想
- 3-3 設備投資・減価償却費予想

4. 2019年3月期 下期の取組

- 4-1 佐倉工場について
- 4-2 財政状態について

5. 市場動向

- 5-1 木質パネル市場
- 5-2 木質パネル供給量の推移
- 5-3 新木場リサイクリング工場は「東京23区内」の好立地
- 5-4 木質チップ市場の動向

6. 中期経営計画

連結業績計画

7. 参考資料

1. 当社グループ概要

1. 当社グループのセグメント

2. 当社グループの事業

3. 製品・用途

1-1 当社グループのセグメント

2つの事業を展開しています。

木材環境ソリューション事業



① **パーティクルボードの製造・加工及び販売**
 マンション、オフィスビルの床材、家具用材として利用。
 また、輸入合板の代替建材として構造用やフロア台板への市場にも参入します。



② **廃棄物の収集運搬及び中間処理**
木質チップの製造・販売
 廃木材からパーティクルボードの原料となる木質チップを製造、販売しています。



その他(WPC,商品売上等)
 国産合板等の商品を販売しています。

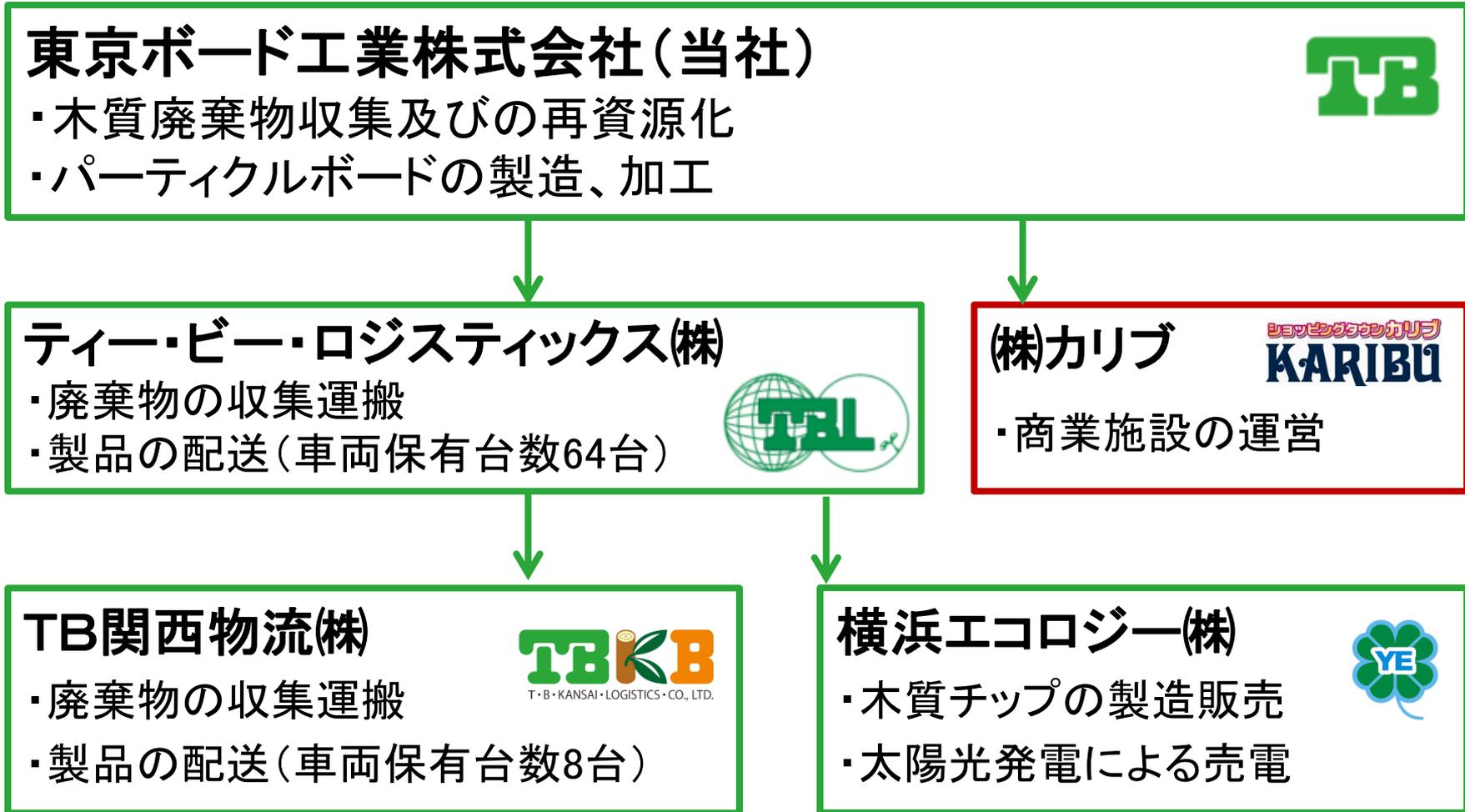
ファシリテイ事業



③ **不動産賃貸**
 工場跡地で商業施設の運営等を営んでいます。

1-2 当社グループの事業

木材環境ソリューション事業は緑枠、ファシリティ事業は赤枠となります。



パーティクルボード

- ・乾式二重床の建材
- ・家具、家電製品の芯材
- ・複合フロアの基板
- ・住宅構造用材(壁材)
- ・床の下地材
- ・体育館・オフィス用床下地材



WPC (Wood Plastic Composite)

- ・デッキ
- ・エクステリア
- ・外構

2. 2019年3月期 連結上期実績

1. 連結業績ハイライト

2. 連結貸借対照表

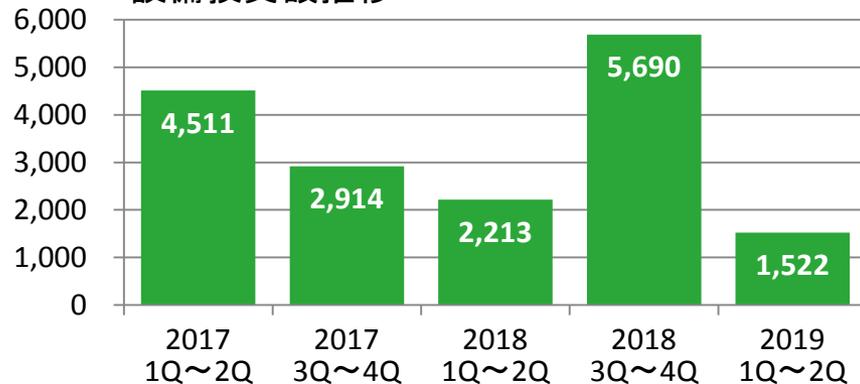
3. 連結キャッシュ・フロー計算書

2-1 連結業績ハイライト

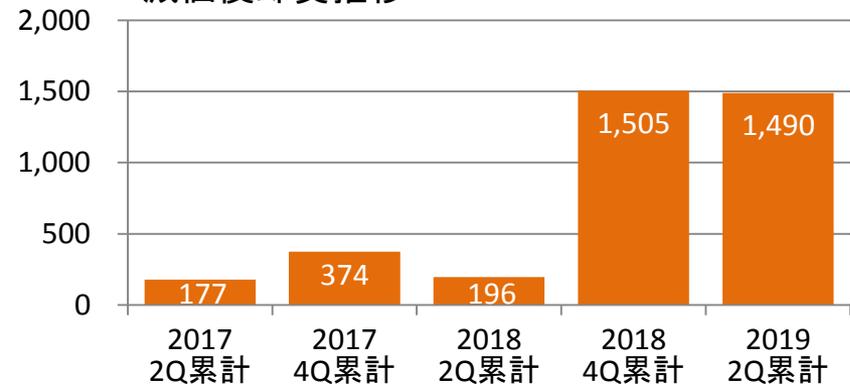
佐倉工場の生産に遅れが生じたことにより減収、機械設備の減価償却が始まり売上原価が上昇し減益。

| 単位:百万円 | 2018年3月期(上期) | | 2019年3月期(上期) | | | |
|--------|---------------------|-------|---------------------|-------|--------------------|--------|
| | 上期累計 | 売上比 | 上期累計 | 売上比 | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 3,018 | — | 2,993 | — | △25 | △0.8% |
| 営業損益 | 280 | 9.3% | △1,512 | — | △1,792 | — |
| 経常損益 | 241 | 8.0% | △1,567 | — | △1,808 | — |
| 四半期純損益 | 142 | 4.7% | △1,663 | — | △1,805 | — |
| 設備投資額 | 2,213 | 73.3% | 1,522 | 50.9% | △691 | △31.2% |
| 減価償却費 | 196 | 6.5% | 1,490 | 49.8% | 1,294 | 660.2% |
| 販売数量 | 32,975 ^ト | — | 32,598 ^ト | — | △377 ^ト | △1.1% |
| 生産数量 | 32,088 ^ト | — | 34,344 ^ト | — | 2,256 ^ト | 7.0% |

設備投資額推移



減価償却費推移

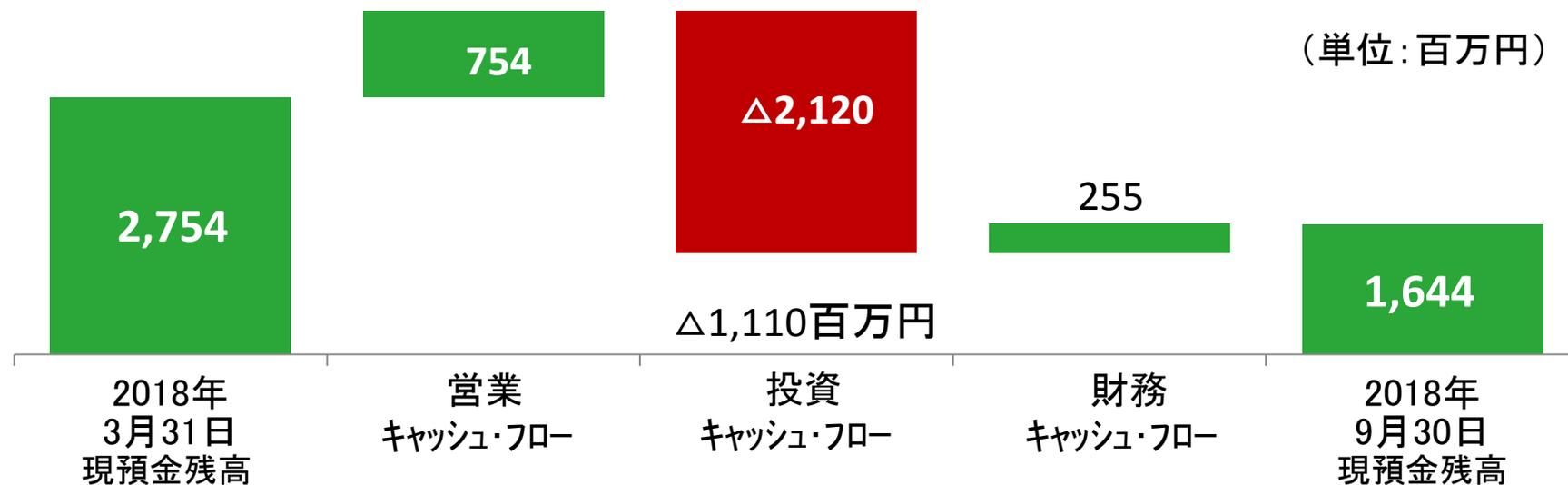


2-2 連結貸借対照表

固定資産の取得に関連して現金及び預金が減少。

| 単位:百万円 | | 2018年3月31日 | | 2019年3月期(上期) | | | |
|----------|-----------|------------|--------|--------------|--------|--------|--------|
| | | 残高 | 構成比 | 残高 | 構成比 | 増減額 | 増減率 |
| 資産の部 | 現金及び預金 | 2,754 | 11.3% | 1,644 | 7.3% | △1,110 | △40.3% |
| | 受取手形及び売掛金 | 1,404 | 5.8% | 1,606 | 7.1% | 202 | 14.4% |
| | その他流動資産 | 1,434 | 5.9% | 588 | 2.6% | △846 | △59.0% |
| | 流動資産 | 5,594 | 23.0% | 3,839 | 17.0% | △1,755 | △31.4% |
| | 固定資産 | 18,715 | 77.0% | 18,688 | 83.0% | △18 | △0.1% |
| | 合計 | 24,310 | 100.0% | 22,527 | 100.0% | △1,783 | △7.3% |
| 負債・純資産の部 | 支払手形及び買掛金 | 734 | 3.0% | 836 | 3.7% | 102 | 13.9% |
| | その他流動負債 | 4,043 | 16.6% | 3,144 | 14.0% | △899 | △22.2% |
| | 流動負債 | 4,777 | 19.7% | 3,981 | 17.7% | △797 | △16.7% |
| | 固定負債 | 15,243 | 62.7% | 15,956 | 70.8% | 713 | 4.7% |
| | 負債合計 | 20,021 | 82.4% | 19,937 | 88.5% | △84 | △0.4% |
| | 純資産合計 | 4,288 | 17.6% | 2,589 | 11.5% | △1,699 | △39.6% |
| | 合計 | 24,310 | 100.0% | 22,527 | 100.0% | △1,783 | △7.3% |

2-3 連結キャッシュ・フロー計算書



| 営業キャッシュ・フロー | 増減額 | 投資キャッシュ・フロー | 増減額 | 財務キャッシュ・フロー | 増減額 |
|-------------|--------|-------------|--------|-------------|-------|
| 税金等調整前利益 | △1,583 | 固定資産の取得 | △2,122 | 短期借入金の返済 | △900 |
| 減価償却費 | 1,490 | 固定資産の売却 | 3 | 社債の償還による支出 | △38 |
| 棚卸資産の増加 | △83 | | | 長期借入金の返済 | △422 |
| 運転資金の増加 | △99 | | | 長期借入による収入 | 1,673 |
| 法人税等の支払 | △38 | | | 配当金の支払 | △57 |
| 未収消費税 | 924 | | | | |
| その他 | 144 | | | | |
| 合計 | 754 | 合計 | △2,120 | 合計 | 255 |

3. 2019年3月期 通期予想

1. 連結業績予想

2. 個別業績予想

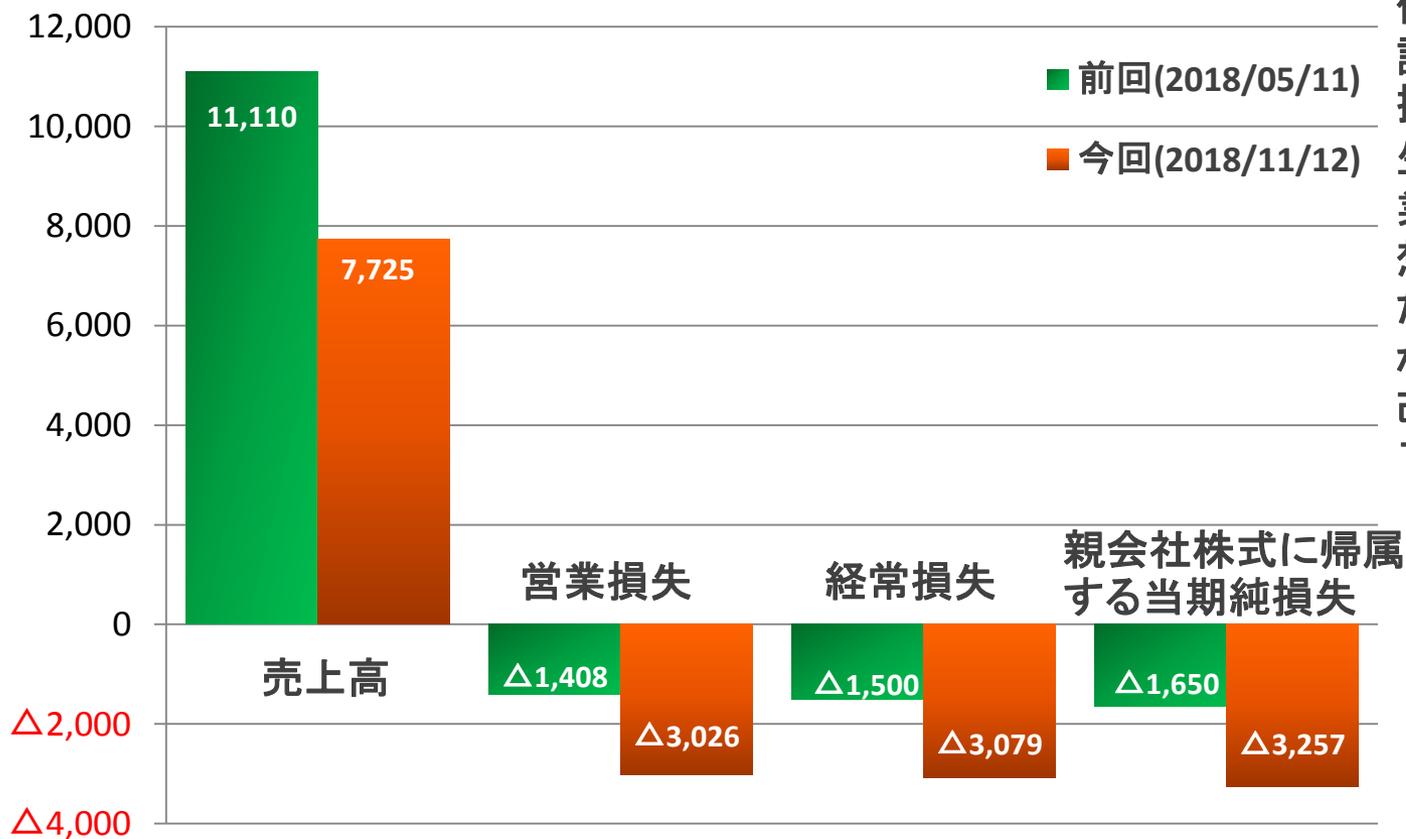
3. 設備投資・減価償却費予想

3-1 連結業績予想

■連結業績予想(当期)

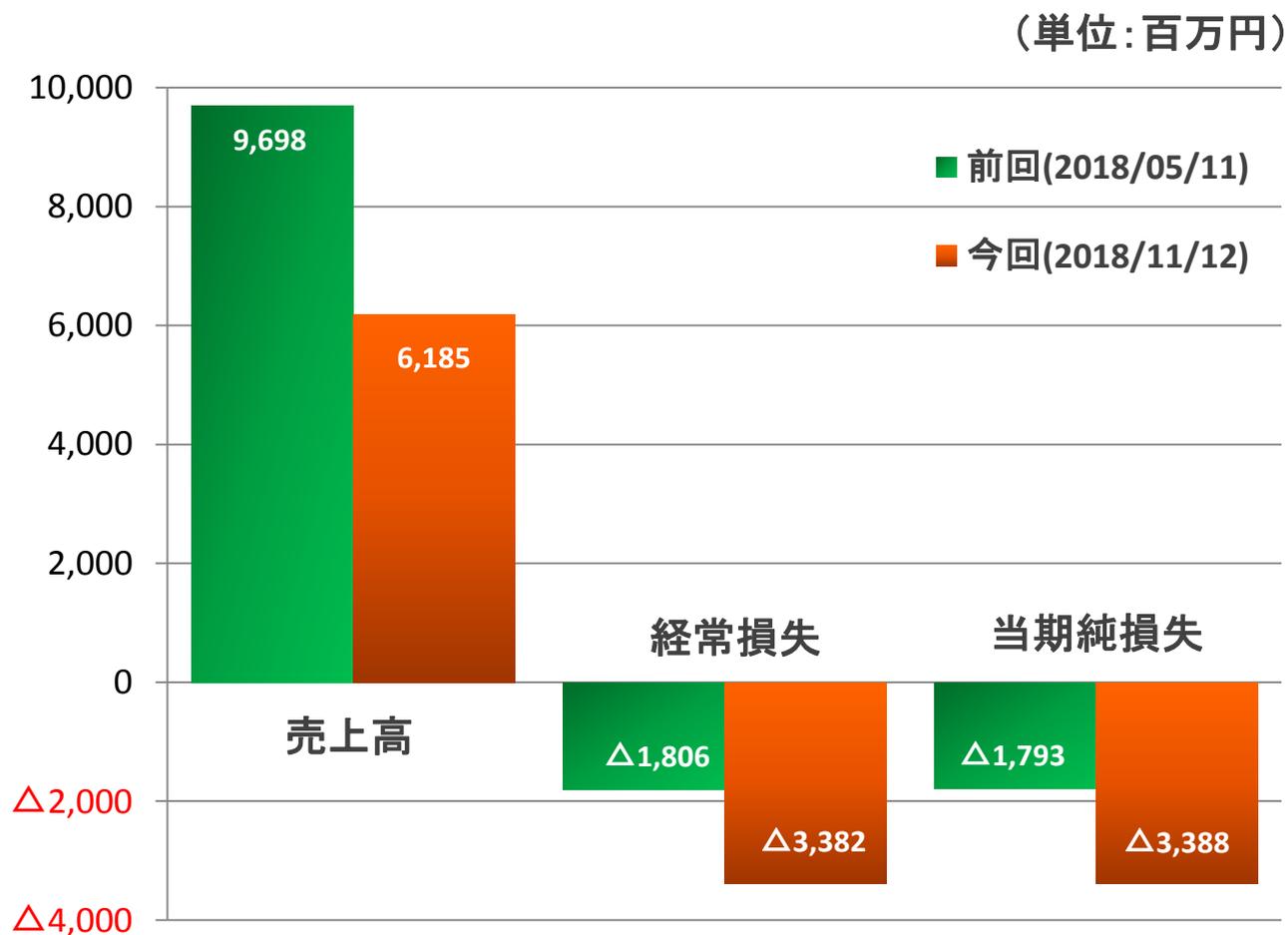
(単位:百万円)

■ 修正の理由
 佐倉工場において当初設計の性能をフルに発揮することが出来ず、生産計画が未達となり業績が前回公表値の予想を下回ることとなったため修正いたしました。なお、佐倉工場の設備改修は2019年5月を完了予定としております。



3-2 個別業績予想

■個別業績予想(当期)



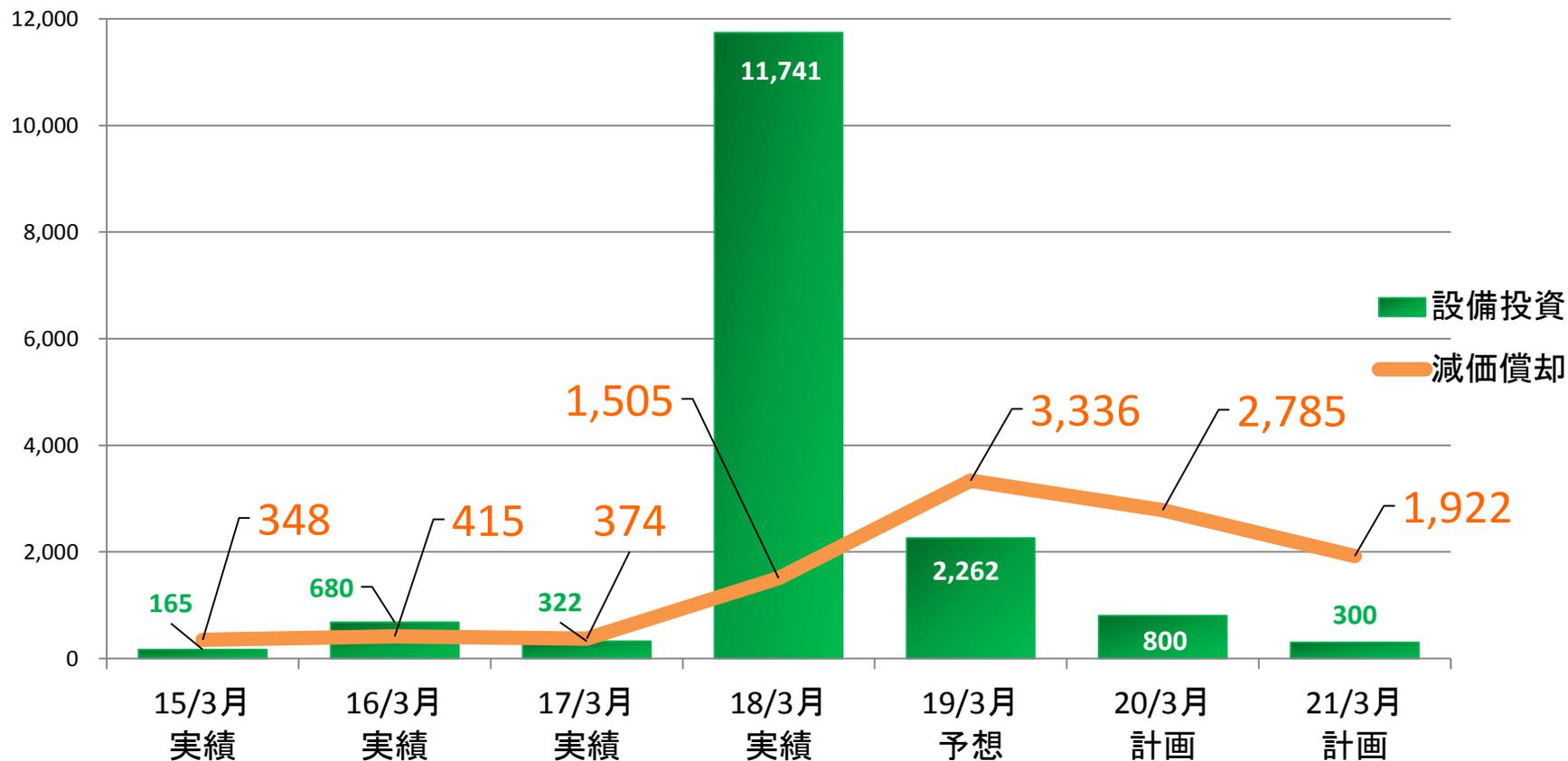
■資金調達

エクイティに頼らない資産売却スキーム及び借入金の調達と合せ2019年3月期内の実施を予定しております。

3-3 設備投資・減価償却費予想

減価償却は定率法(8年)を採用しており、2019年3月期(当期)をピークに減少。

(単位:百万円)



4. 2019年3月期 下期の取組

1. 佐倉工場について

2. 財政状態について

■ 生産が遅れている理由

- ①生産数量が上がらないボトルネックの特定に時間を要した
- ②搬送設備の積算及び設計ミスを発見した
- ③人員不足
- ④追加設備の発注が遅れ、改修スケジュールに大幅な遅延が生じた



■ 主要な追加工事の概要

- ①各コンベアーと各工程の能力UP
- ②原料供給装置の増設

4-2 財政状態について

■個別の場合

2018年3月期末
純資産額 2,892百万円

2,892

+

個別業績予想
△3,388百万円

△3,388

=

2019年3月期末
予想純資産額
△496百万円

| | |
|--------------|------------|
| | 売却益 |
| (懸念) 債務超過 | 売却益で 解消 |

債務超過回避策

資産



証券化

譲渡



売却益



■連結の場合

2018年3月期末
純資産額 4,288百万円

+

連結業績予想
△3,257百万円

=

2019年3月期末
予想純資産額 1,031百万円

(債務超過の懸念なし)

5. 市場動向

1. 木質パネル市場

2. 木質パネル供給量の推移

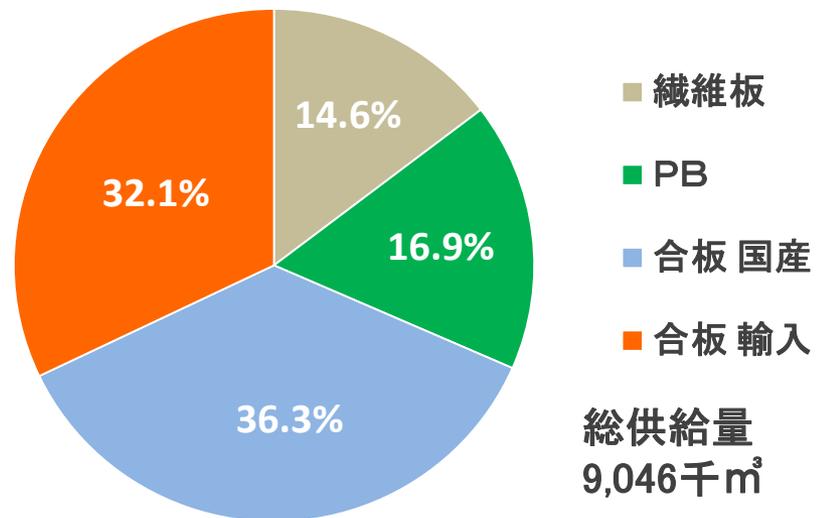
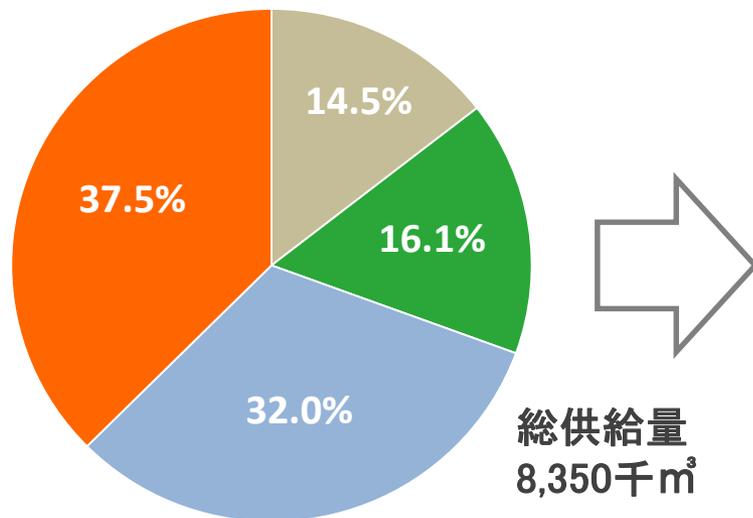
3. 木質チップ市場

5-1 木質パネル市場

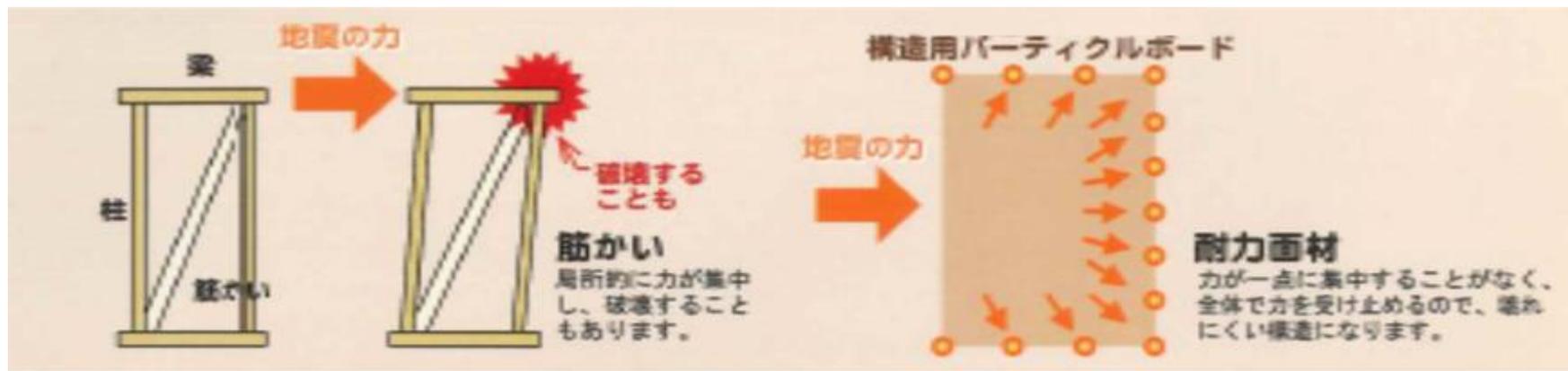
2010年木質パネル供給シェア

2017年木質パネル供給シェア

国内



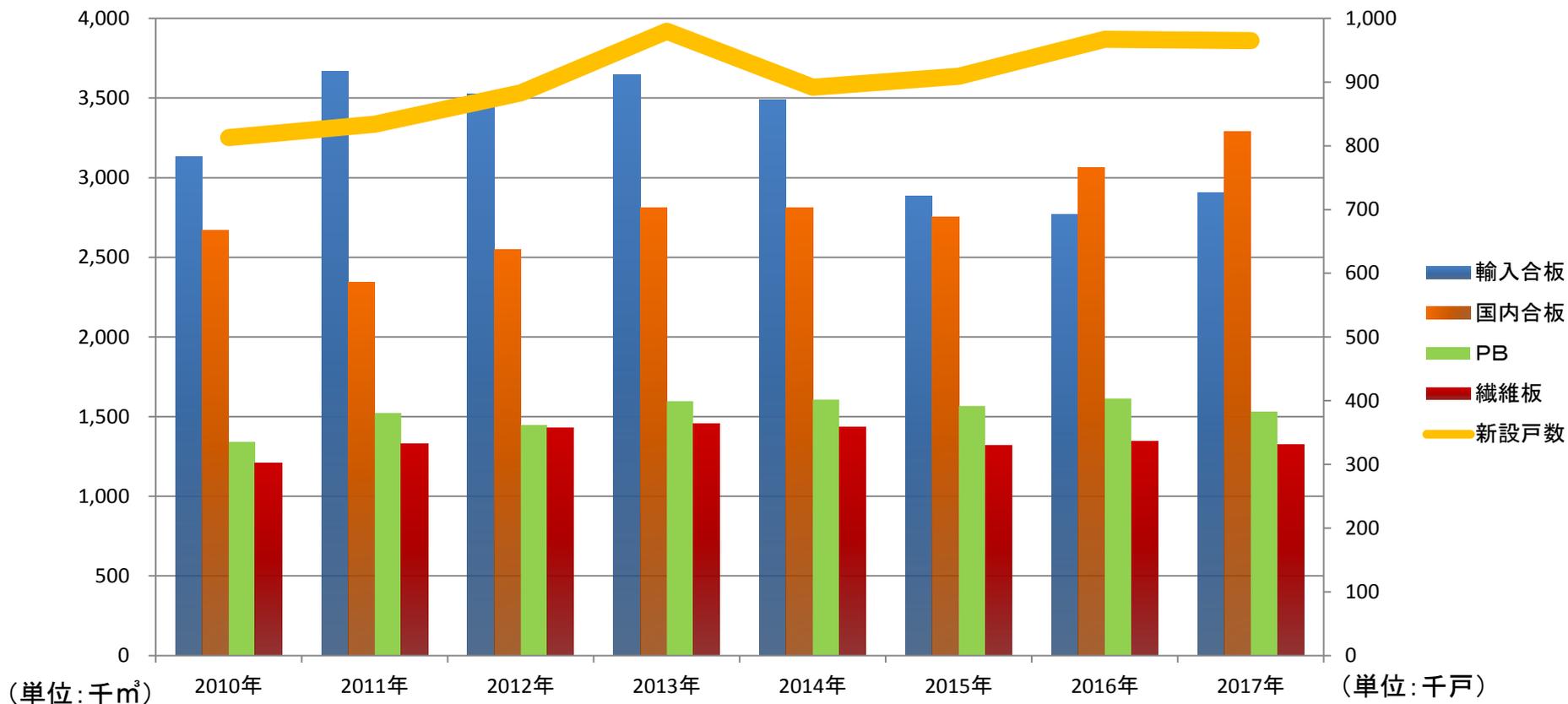
出典：経済産業省「建材統計」、財務省「貿易統計」



5-2 木質パネル供給量の推移

パーティクルボード及びその他の供給状況

世界的な環境規制等により輸入合板が減少し、国産合板及びパーティクルボードへ代替が進んでおり、この傾向はしばらく継続する見込み。



出典：経済産業省「建材統計」、財務省「貿易統計」



1. ONLY 1

東京23区内で、廃木材の受入からパーティクルボードの製造を、一貫して行っているのは当社のみ。

2. 物流面で大きな優位性

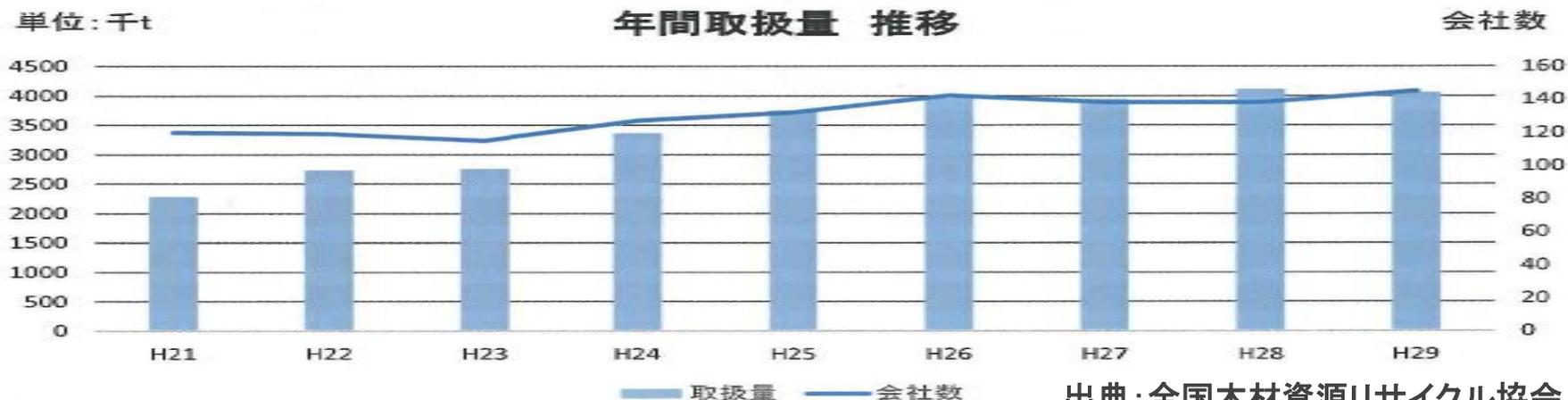
新設住宅着工戸数の3割以上が首都圏。当社工場から建設現場へ直接配送と廃木材の直接回収が可能。

3. 2020年 東京オリンピック

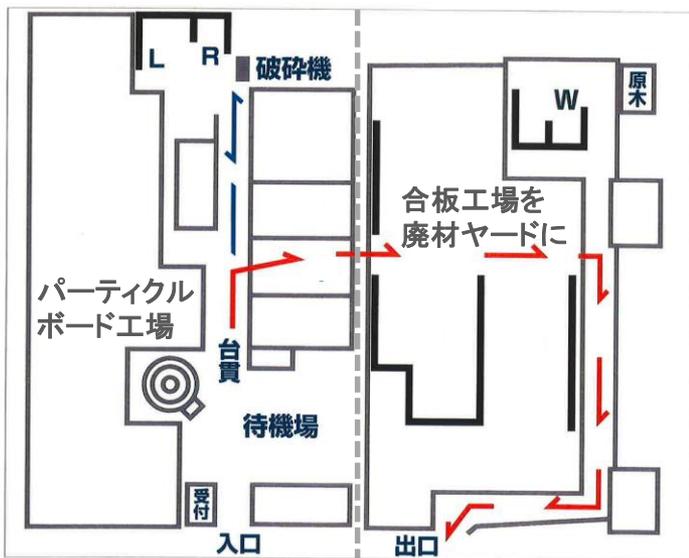
東京オリンピックの中心となる東京湾岸エリアに位置する。

5-4 木質チップ市場の動向

廃木材の取扱量は、全国的に増加傾向。



受入量の増大を目指し新木場 廃材ヤードを拡張



最大5時間の待ち時間を、30分以内へ解消。



6. 中期経営計画

6-1 中期経営計画(連結)

中期経営計画を修正。設備等の改修を行い、2019年6月を目途に安定的なフル生産に移行する見込み。

(単位:百万円)

| | 2017年3月期 第72期 (実績) | 2018年3月期 第73期 (実績) | 2019年3月期 第74期 (予想) | 2020年3月期 第75期 (計画) | 2021年3月期 第76期 (計画) |
|-----------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 売上高 | 5,950 | 5,921 | 7,725 | 13,350 | 13,834 |
| 営業損益 | 653 | △877 | △3,026 | 701 | 1,792 |
| 経常損益 | 485 | △972 | △3,079 | 552 | 1,664 |
| 減価償却費 | 374 | 1,505 | 3,336 | 2,785 | 1,922 |
| EBITDA ※1 | 918 | 654 | 404 | 3,501 | 3,729 |

※1 EBITDA＝税金等調整前当期純損益に特別損益、支払利息及び減価償却費を加算した値です。

設備の減価償却は、8年の定率法を採用しています。

7. 参考資料

7 参考資料

連結売上高



連結経常利益



連結純資産



連結総資産



問い合わせ先

東京ボード工業株式会社

経営管理部

TEL : 03-3522-4138

E-mail: t-b-i@t-b-i.co.jp

本資料で記述しております業績予想並びに将来予想は、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、為替レートの変動等、多分に不確実要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により、業績予想と乖離することがあり当社が、その実現をお約束する趣旨のものではありません。